

## 受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。  
さて、「日本株式ファンド “i-TECH”」は、このたび、  
第18期の決算を行いました。

当ファンドは、主として、わが国の金融商品取引所上  
場株式に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に運  
用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告  
申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し  
上げます。

### 第18期末(2017年12月4日)

基準価額	5,692円
純資産総額	1,755百万円
第18期	
騰落率	36.9%
分配金(税引前)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計  
算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項の  
うち重要なものを記載した書面です。その他の内容に  
ついては、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全  
体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提  
供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、  
岡三アセットマネジメントのホームページにて閲  
覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求  
により交付されます。交付をご請求される方は、販  
売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>  
ホームページのファンド情報から当ファンドのファンド  
名称を検索することにより、運用報告書(全体版)  
を閲覧およびダウンロードすることができます。

# 日本株式ファンド “i-TECH”

追加型投信／国内／株式

作成対象期間：2016年12月3日～2017年12月4日

## 交付運用報告書

第18期(決算日2017年12月4日)

 **岡三アセットマネジメント**

〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社クライアント・サービス部へ  
フリーダイヤル ☎0120-048-214 (営業日の9:00~17:00)

[ホームページ]

<http://www.okasan-am.jp>

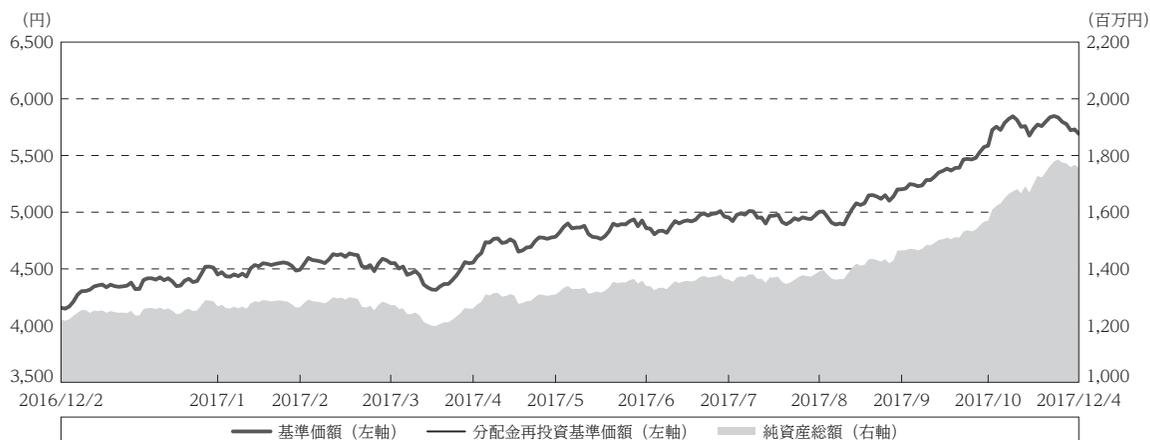
※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。  
※機種により本サービスをご利用いただけない場合があります。



## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2016年12月3日～2017年12月4日)



期 首：4,157円

期 末：5,692円 (既払分配金(税引前)：0円)

騰落率：36.9% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首(2016年12月2日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

## (主なプラス要因)

- ・業種配分では、電気機器、情報・通信業、非鉄金属などが基準価額にプラスに寄与しました。
- ・個別銘柄では、安川電機、東京エレクトロン、ロームなどが基準価額にプラスに寄与しました。

## (主なマイナス要因)

- ・業種配分では、金属製品、陸運業が基準価額にマイナスに寄与しました。
- ・個別銘柄では、任天堂、パイオニア、楽天などが基準価額にマイナスに寄与しました。

## 1万口当たりの費用明細

(2016年12月3日～2017年12月4日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	90	1.846	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	( 42)	(0.869)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	( 42)	(0.869)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 5)	(0.109)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	12	0.243	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
( 株 式 )	( 12)	(0.243)	
(c) そ の 他 費 用	0	0.008	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	( 0)	(0.001)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
( 監 査 費 用 )	( 0)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( そ の 他 )	( 0)	(0.001)	その他は、金融商品取引を行う為の識別番号取得費用等
合 計	102	2.097	
期中の平均基準価額は、4,873円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2012年12月3日～2017年12月4日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。  
 (注) 分配金再投資基準価額は、2012年12月3日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2012年12月3日 期初	2013年12月2日 決算日	2014年12月2日 決算日	2015年12月2日 決算日	2016年12月2日 決算日	2017年12月4日 決算日
基準価額 (円)	1,989	3,585	4,073	4,681	4,157	5,692
期間分配金合計(税引前) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	80.2	13.6	14.9	△ 11.2	36.9
東証株価指数(TOPIX)騰落率 (%)	—	61.0	13.4	12.2	△ 7.8	20.9
日経平均株価(225種)騰落率 (%)	—	65.5	12.8	12.9	△ 7.6	23.2
純資産総額 (百万円)	839	1,405	1,434	1,464	1,220	1,755

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

(注) 東証株価指数(TOPIX)、日経平均株価(225種)は当ファンドの参考指数です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する指数として記載しているものです。

## 投資環境

(2016年12月3日～2017年12月4日)

国内株式市場は、米トランプ大統領の政策への期待を背景に円安米ドル高が進行したことから上昇して始まりました。その後は、企業業績の先行き期待はあるものの、北朝鮮情勢の悪化などが重しとなり、国内株式市場は一進一退の展開となりました。しかし期末にかけては衆議院選挙で与党が勝利シアベノミクスの再加速への期待が高まったことなどから、国内株式市場は上昇しました。

米国株式市場は、北朝鮮や中東を巡る地政学リスクの高まりや大型ハリケーン上陸による景気悪化懸念などから弱含む局面もありましたが、米トランプ大統領が打ち出す財政政策や金融の規制緩和への期待、堅調な企業業績を背景に総じて上昇基調で推移しました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2016年12月3日～2017年12月4日)

当期は、情報制御技術を活用した自動車の電装化（安全性能の向上、省エネの推進）や、情報通信技術（IT）の情報・通信産業以外の分野への拡大などに着目して関連銘柄を組み入れていく方針で臨みました。

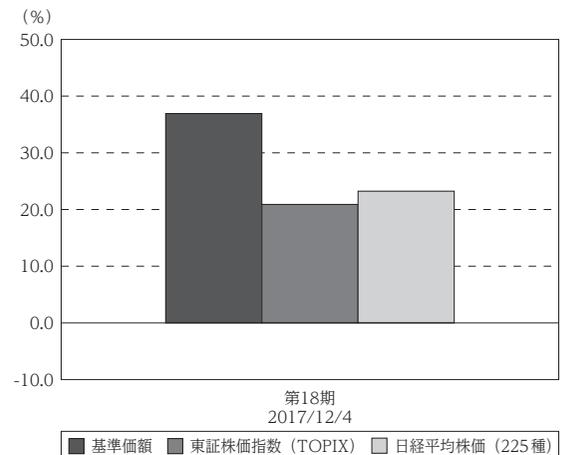
- (1) 期末にかけて、株価が上昇し割安感が乏しいと判断した電気機器の組入比率を引き下げた一方、株価に出遅れ感のある輸送用機器の組入比率を引き上げました。
- (2) 国内株式では、自動車の電装化の進展により半導体需要の増加が期待できると考えたルネサスエレクトロニクスや住友ベークライトを新規に組み入れたほか、受動部品の需給逼迫で業界環境の改善が期待できると考えた京セラやTDKなどの電子部品株を新規に組み入れました。
- (3) 外国株式では、米国や中国で光ファイバー需要の増加の恩恵を見込みコーニングを新規に組み入れました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2016年12月3日～2017年12月4日)

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

基準価額と参考指数の対比（騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

(注) 参考指数は、東証株価指数（TOPIX）、日経平均株価（225種）です。

## 分配金

(2016年12月3日～2017年12月4日)

当ファンドは、毎年12月2日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、委託会社が基準価額水準、配当等収益等を勘案のうえ分配金額を決定します。

当期の分配につきましては、分配対象収益の状況や基準価額水準を考慮し、見送らせて頂きました。なお、収益分配に充てなかった留保益の運用につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

(単位:円、1万口当たり・税引前)

項 目	第18期
	2016年12月3日～ 2017年12月4日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	233

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

当ファンドはIT産業に関連する企業を投資対象とし、主に情報インフラ、ネットワークサービス、ソフトウェア、コンテンツビジネス等の視点に着目して、銘柄選別を行ってまいります。

自動車の電装化や情報量の増加に伴う半導体や電子部品の需要増加などのテーマに着目しその中で、ハイテク株について株価指標で過熱感があるとみられる銘柄もあることから見極めながら組み入れます。

また、次世代の移動通信の規格である5G（第5世代移動通信システム）など新しいテーマに着目するほか、高い技術力や成長性があるにもかかわらず、一時的な業績鈍化などにより株式市場で過小評価されていると考えられる銘柄などを組み入れ、テーマの分散を進める方針です。

※文中の投資行動は、個別銘柄の売買等いかなる投資行動も推奨するものではありません。

## お知らせ

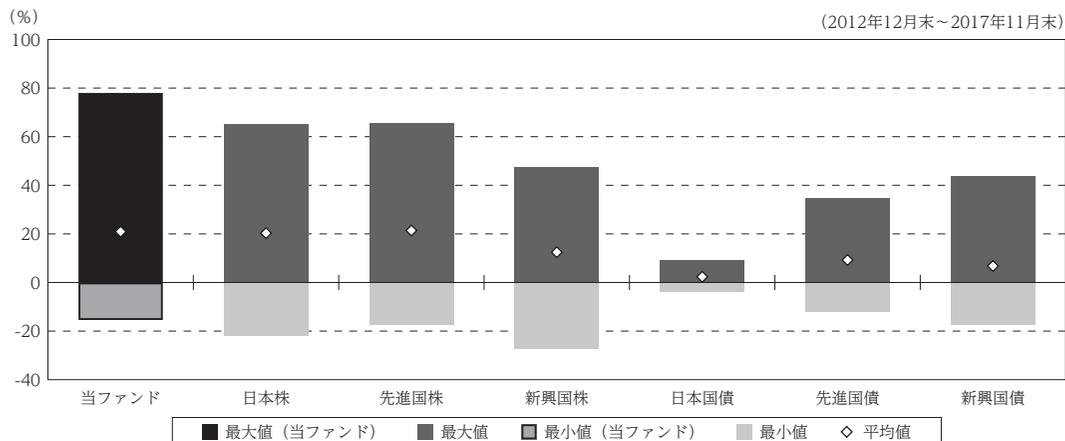
該当事項はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	1999年12月3日から2019年12月2日までです。
運用方針	主として、わが国の金融商品取引所上場株式に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に運用を行います。
主要投資対象	わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。 信託財産の純資産総額の30%以下の範囲内で、外国の取引所上場株式など外貨建資産に投資する場合があります。
運用方法	急成長を続けるインフォメーションテクノロジー関連企業に投資します。 銘柄選定にあたっては、主に情報インフラ、ネットワークサービス、ソフトウェア、コンテンツビジネスに着目します。 投資対象企業への訪問等による調査を通じて、売上高の伸び率、利益成長率、業界内におけるシェアの拡大など、成長性に重点をおいた投資価値分析を行い、投資価値が高いと判断される銘柄を選定します。
分配方針	毎年12月2日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越し分を含めた利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 分配金額は、委託会社が基準価額水準、配当等収益等を勘案して決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	78.0	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	△ 15.4	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	20.9	20.3	21.4	12.5	2.3	9.3	6.8

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2012年12月から2017年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCIエマーゼィング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマーゼィング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2017年12月4日現在)

## ○組入上位10銘柄

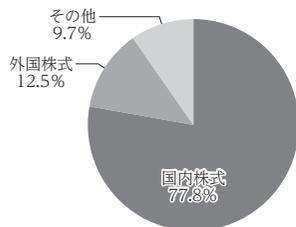
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	日本電産	電気機器	円	日本	3.2
2	ファーストリテイリング	小売業	円	日本	3.0
3	AMAZON.COM INC	小売	米ドル	アメリカ	3.0
4	ファナック	電気機器	円	日本	2.9
5	セイコーエプソン	電気機器	円	日本	2.8
6	日本電信電話	情報・通信業	円	日本	2.6
7	本田技研工業	輸送用機器	円	日本	2.5
8	カシオ計算機	電気機器	円	日本	2.5
9	安川電機	電気機器	円	日本	2.5
10	KDDI	情報・通信業	円	日本	2.5
	組入銘柄数		61銘柄		

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

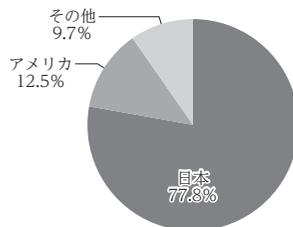
(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国を表示しております。

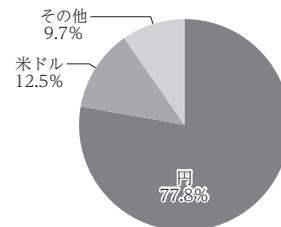
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

## 純資産等

項目	第18期末
	2017年12月4日
純資産総額	1,755,878,704円
受益権総口数	3,084,769,861口
1万口当たり基準価額	5,692円

(注) 期中における追加設定元本額は490,385,617円、同解約元本額は340,285,556円です。

### ＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

#### ○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

#### ○MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

#### ○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

#### ○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

#### ○シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、シティ世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

#### ○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。